

Nara National Museum

奈良国立博物館

だより

第 **117** 号

令和3年 4・5・6月



◎薬師如来坐像（奈良・法隆寺）

特別展

聖徳太子1400年遠忌記念 特別展
聖徳太子と法隆寺

4月27日(火)～6月20日(日)
東・西新館

特別展
(予告)

奈良博三昧

—至高の仏教美術コレクション—

7月17日(土)～9月12日(日)
東・西新館

名品展

珠玉の仏たち

通年開催
なら仏像館

中国古代青銅器

通年開催
青銅器館

特別展

聖徳太子1400年遠忌記念 特別展

聖徳太子と法隆寺

4月27日(火)～6月20日(日)

奈良・斑鳩いかるがの地に悠久の歴史を刻む法隆寺は、推古天皇十五年(六〇七)、聖徳太子によって創建されたと伝えられます。太子は『法華経』・『勝鬘経』の講讀こうきやくに代表されるように仏教の真理を深く追究し、また冠位十二階や憲法十七条などの制度を整えることで、この国の文化的な基盤を築きました。聖徳太子を敬う人々の心は、その没後に信仰として発展し、こんにちもお日本人の間に連綿と受け継がれています。

令和三年(二〇二一)は聖徳太子の一四〇〇年遠忌にあたり、これを記念して特別展「聖徳太子と法隆寺」を開催します。本展覧会では法隆寺において護り伝えられてきた寺宝を中心に、太子の肖像や遺品と伝わる宝物、飛鳥時代以来の貴重な文化財を通じて太子その人と太子信仰の世界に迫ります。さらに、明治十一年(一八七八)に法隆寺から皇室へと献納された「法隆寺献納宝物」が、奈良へまともって里帰りする貴重な機会ともなります。

本展覧会は一四〇〇年という遙かなる時をこえて、今を生きる私たちが聖徳太子に心を寄せることでその理想に思いを馳せ、歩むべき未来について考える機会となることでしょう。

※本展覧会は事前予約優先制です。詳しくは別ページのご案内をご確認下さい。



●玉虫厨子 (奈良・法隆寺)



●聖徳太子および侍者像のうち聖徳太子 (奈良・法隆寺)



●羅漢坐像(塔本塑像のうち) (奈良・法隆寺)



●聖徳太子絵伝 第1面 部分 (東京国立博物館(法隆寺献納宝物))
※4月27日～5月23日展示

特別展

奈良博三昧

—至高の仏教美術コレクション—

7月17日(土)～9月12日(日)

奈良国立博物館は、豊かな仏教文化が花開いた古都奈良の地、東大寺、興福寺、春日大社に囲まれた一角に位置します。明治二十八年（一八九五）にわが国二番目の国立博物館として開館して以来、仏教美術を中心とした文化財の展示公開を行い、全国の仏教美術ファンから「奈良博」の愛称で親しまれてきました。

本展では、奈良博コレクションの中から選りすぐった優品によって、日本仏教美術一四〇〇年の歴史をたどって行きます。「三昧」とは、一つの対象に心を集中することを意味する仏教由来の言葉。熱心にとけの姿をみることを特に「観仏三昧」と呼びます。ぜひ本展を通じて、奈良博の仏教美術コレクションの魅力を心ゆくまで堪能ください。

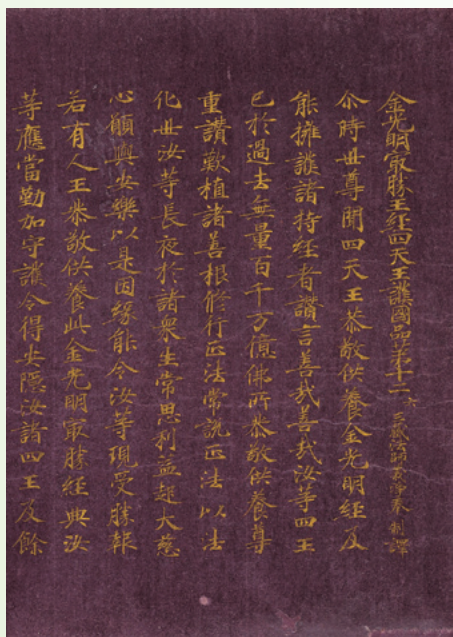
〈※会期中、展示替えがあります〉



●十一面観音像（当館）



●辟邪絵のうち天刑星（当館）



●金光明最勝王經 卷第六 部分（当館）



●薬師如来坐像（当館）

奈良国立博物館史上最大の仏像展示

当館学芸部美術室長 岩井 共一

本年一月十九日、なら仏像館の展示室に、奈良国立博物館の開館以来、最も大きな彫刻が搬入された。この二月二十三日から、なら仏像館第6室で特別公開されている、金峯山寺仁王門の金剛力士立像(重要文化財)である。阿形が像高五〇五・八センチ、吽形が五〇六・二センチ。国宝・重要文化財に指定されている金剛力士像の中では、日本で二番目に大きな金剛力士像である。ちなみに一番は、当館のすぐ近くにある東大寺南大門の金剛力士立像(国宝)だ。

これまで、奈良国立博物館の展示品で一番大きかったのが、昭和五十九年(一九八四)から平成十年(一九九八)まで、なら仏像館(当時は本館)に安置されていた愛知・財賀寺の金剛力士立像(重要文化財)のうち、像高三七六・五センチの阿形像だった(ただし、平成十二年(二〇〇〇)から十八年(二〇〇六)まで当館で公開していた国宝・唐招提寺金堂の薬師如来立像は、像高三三三・五センチだが、台座や光背を含めた総高は五メートル近くあった)。

これほど巨大な仏像を、なら仏像館に運び込むのは、容易なことではなかった。ま



①何も無い展示室



②展示台設置



③搬入直後の様子



④像本体が立ったところ



⑤腕などを取り付けて安置が完了



⑥足場等を撤去



⑦展示の完成した後の金剛力士像(なら仏像館第6室)

ず、仏像や展示台をすべて運び出して空っぽにし(①)、そこに新たに免震装置付きの専用展示台を設置した(②)。次に仏像をつり上げるための足場を設置。仏像館の入口が狭いので、両腕などは一旦取り外した状態で横倒しで木枠に梱包し、ギリギリの幅で入口を通り抜けて搬入(③)。チェーンブロックを使って像をつり上げて立たせ、木枠を外した(④)。両腕などの外した部分を接合して安置が完了(⑤)。足場などを撤去した後(⑥)、第6室の室内に免震装置付きの展示台を設置してほかの仏像を再安置。最後にそれぞれの仏像のライティングをして、全ての作業が終わった(⑦)。仏像の展示作業だけで、ほぼ一ヶ月、前後の作業を含め二ヶ月の間、なら仏像館を臨時休館しての大きかりな作業であった。

二体の像の頭頂と、展示室のルーバー天井(平行に並んでいる横木の部分)までは一メートルあるかないかである。この高さを超える仏像だと、もはや展示室内で立たせることは出来ない。この金峯山寺の金剛力士像は、後にも先にも奈良国立博物館史上最大の仏像展示となるだろう。この大きさと迫力は、写真では伝わらない。ぜひ、ご来館いただいで、その大きさを実感していただきたい。

※金峯山寺金剛力士立像の搬入、展示の様様については当館YouTubeチャンネルでも公開中です。

出陳一覧

名品展 珠玉の仏たち

なら仏像館

3月23日(火)～7月4日(日)

彫刻

【第1室】

- 阿弥陀如来立像 個人 松尾寺
- 〇十一面観音菩薩立像 不動明王立像 正智院
- 天部形立像 法明寺
- 藏王権現立像 当館
- 〇狛犬 当館

【第2室】

- 〇虚空蔵菩薩坐像 文化庁
- 天部坐像 当館
- 〇文殊菩薩坐像 薬師寺
- 毘沙門天立像 如法寺
- 〇菩薩立像 金竜寺

【第3室】

- 阿弥陀三尊像 個人
- 阿弥陀如来坐像 当館
- 阿弥陀如来立像 当館
- 阿弥陀如来立像 個人
- 阿弥陀如来立像 東大寺

【第4室】

- 方形独尊坐像埴仏 当館
- 火頭形三尊埴仏 当館
- (奈良県橘寺出土) 六角形埴仏(三重県天華寺出土) 当館
- 塑像断片(迦楼羅頭部ほか) 当館
- (奈良県川原寺裏山遺跡出土) 明日香村教育委員会

【第5室】

- 〇誕生釈迦仏立像 福命寺
- 誕生釈迦仏立像 正眼寺
- 誕生釈迦仏立像 個人
- 誕生釈迦仏立像 当館
- 誕生釈迦仏立像 当館
- 誕生釈迦仏立像 法徳寺
- 誕生釈迦仏立像 興福院
- 〇観音菩薩立像 法隆寺
- 〇観音菩薩立像 観心寺
- 〇観音菩薩立像 金剛寺
- 〇観音菩薩立像 個人
- 〇観音菩薩立像 新薬師寺
- 〇如来坐像 当館
- 誕生釈迦仏立像 個人
- 二仏並坐像 当館
- 菩薩立像 個人
- 十一面観音菩薩立像 個人
- 力士立像 個人
- 〇如来立像 光明寺
- 如来立像 当館
- 釈迦如来坐像 園城寺
- 〇藏王権現立像 当館
- 誕生釈迦仏立像 薬師寺
- 不動明王立像 当館
- 勢至菩薩立像 当館

塑像断片(菩薩頭部)
(奈良県定林寺出土)
塑像断片(天部・僧形像ほか)
(滋賀県雪野寺出土)

特別公開

〇金剛力士立像 金峯山寺

【第7室】

- 〇光背(二月堂本尊所用) 東大寺
- 〇千手観音菩薩立像 園城寺
- 〇観音菩薩立像 当館
- 〇観音菩薩立像 勝林寺
- 〇十一面観音菩薩立像 文化庁
- 〇十一面観音菩薩立像 元興寺
- 〇十一面観音菩薩立像 地福寺
- 〇十一面観音菩薩立像 勝林寺
- 〇十一面観音菩薩立像 新薬師寺
- 〇十一面観音菩薩立像 当館

【第8室】

- 〇如来三尊像 当館
- 〇如来三尊像 個人
- 〇如来坐像 大日如来坐像 十市町自治会
- 〇阿閼如来坐像 西大寺
- 〇阿弥陀如来立像(裸形) 浄土寺
- 〇梵天立像 秋篠寺
- 〇救脱菩薩立像 秋篠寺

【第9室】

- 〇龍猛菩薩立像 泰雲院
- 〇明星菩薩立像 弘仁寺
- 〇地藏菩薩立像 大福寺
- 〇地藏菩薩立像 新薬師寺
- 〇地藏菩薩立像 法徳寺
- 〇地藏菩薩立像 万福寺

【第10室】

- 愛染明王坐像 当館
- 不動明王立像 個人
- 不動明王坐像 正寿院
- 大威徳明王騎牛像 妙法院
- 不動明王立像 当館

【第11室】

- 伊豆山権現立像 当館
- 大将軍神坐像 大将軍八神社
- 〇藏王権現立像 大峯山寺
- 四天王立像 現光寺
- 持国天立像・増長天立像 法徳寺
- 天部形立像 個人

【第12室】

- 二天王立像 室生寺
- 帝釈天坐像 室生寺
- 吉祥天倚像 当館

【第13室】

- 如来倚像(押出仏) 当館
- 観音菩薩立像(押出仏) 当館
- 菩薩立像(興福寺千体仏) 個人
- 地藏菩薩立像 当館
- 阿弥陀如来立像 西法寺
- 如来立像 個人

◆お知らせ◆

特別公開中の「金峯山寺仁王門 金剛力士立像」について、3月20日(土・祝)より写真の撮影が可能となりました。従前より写真撮影が可能であった青銅器館を含め、ご観覧とともに写真撮影をお楽しみいただくことができます。

写真の撮影にあたっては、他のお客様のご迷惑にならないようご配慮ください。また、下記の行為はご遠慮いただきますようお願いいたします。

- ・動画の撮影
- ・フラッシュや自撮り棒などを用いた撮影
- ・展示品との記念撮影
- ・撮影を許可された展示品以外の撮影
- ・撮影した写真の商業利用

なら仏像館 特別公開「金峯山寺仁王門 金剛力士立像動画」Part1 搬入・展示編
<https://youtu.be/8uDLgzO9skw>

名品展

中国古代青銅器(坂本コレクション)

青銅器館

- 金剛童子立像 当館
- 阿弥陀如来立像 浄土寺
- 〇菩薩面 浄土寺
- 破損仏像残欠コレクション 当館



鳳凰文卮

中国古代の商(殷)から漢代に製作された、青銅器の逸品を展示しています。

※●＝国宝、○＝重要文化財
※展示品は都合により一部変更する場合がございます。

◆奈良国立博物館賛助会

令和3年4月1日現在、特別支援会員2団体、特別会員4団体、一般会員(団体)16団体、一般会員(個人)69名のご入会をいただいております。

- 〔特別支援会員〕 (株)読売新聞大阪本社、結の会、
〔特別会員〕 (株)奥村組西日本支社、(株)朝日新聞社、
(株)ライブアートブックス、(株)ゴードー
〔団体会員〕 日本通運(株)関西美術品支店、(株)尾田組、
(株)伏見工芸、(株)木下家具製作所、
(株)天理時報社、(株)きんでん奈良支店、
奈良信用金庫、ひかり装飾(株)、(株)南都銀行、
小山(株)、茶道裏千家淡交会奈良支部、
オフィス・カワイ、(株)葉風泰夢、桃谷樓
〔個人会員(新規)〕 山中 義則様 令和3年3月ご入会

◆キャンパスメンバーズ

春の特別展ではキャンパスメンバーズを対象に、学芸員による解説付き鑑賞会を実施する予定です。詳しくはホームページをご覧ください。

令和3年4月1日現在、「キャンパスメンバーズ」会員の大学等は以下の通りです。

大阪大谷大学、大阪大学・大阪大学歯学部附属歯科技工士学校、
関西大学・関西大学第一高等学校・関西大学北陽高等学校・関西大学高等部、
関西学院大学・聖和短期大学・関西学院高等部・関西学院千里国際高等部、
関西学院大阪インターナショナル、京都外国語大学・京都外国語短期大学、
京都工芸繊維大学、京都女子大学・京都女子高等学校、京都精華大学、
京都大学、京都橘大学、近畿大学文芸学部・近畿大学大学院総合文化研究科、
嵯峨美術大学・嵯峨美術短期大学、四天王寺大学人文・社会学部、
就実大学人文科学部、帝塚山大学、天理大学、同志社大学・同志社女子大学、
同志社高等学校・同志社香里高等学校・同志社女子高等学校・同志社国際高等学校、
奈良教育大学、奈良県立大学、奈良工業高等専門学校、奈良女子大学、
奈良先端科学技術大学院大学、奈良大学、佛教大学、立命館大学・立命館大学大学院、
龍谷大学・龍谷大学短期大学(以上、五十音順)

■新型コロナウイルス感染症対策について

当館では引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大予防のための対策を行っています。ご来館に際しては、以下のとおり、ご協力をお願いいたします。

- ①37.5℃以上の発熱や風邪の症状、だるさ・息苦しさなどがある方、
- ②過去2週間以内に発熱や風邪症状で受診や服薬などをされた方、
- ③新型コロナウイルス陽性とされた方との濃厚接触がある方、
- ④過去2週間以内に政府から入国制限・入国後の観察期間を必要とされる国や地域への訪問歴および当該地域在住者との濃厚接触がある方は、ご来館をお控えください。

入館前に検温を実施いたします。37.5℃以上の発熱が認められた場合には、ご入館をお断りいたします。

混雑状況により入館制限を実施する場合がございます。

入館中はマスクを着用し、咳エチケットにご留意ください。アルコール消毒や手洗いにご協力ください。

展示室内では会話を控え、展示ケースには触れないでください。他の方との距離を保つようにしてください。

なお、展示やイベントなどにつきましては、新型コロナウイルス感染拡大の状況に応じ実施内容に変更が生じる可能性があります。あらかじめご理解いただけますようお願いいたします。

【表紙解説】

国宝 薬師如来坐像

銅造 鍍金
像高九八・七cm
飛鳥時代(七世紀)
奈良・法隆寺



金堂東の間の本尊。光背の裏面に銘文があり、用明天皇がみずからの病氣平癒のために寺の建立を発願したもの、ほどなく亡くなったため、その遺志を継いだ推古天皇と聖德太子が丁卯年(六〇七)に寺と薬師像を完成させたという由緒が記される。

明治八年(一八七五)に開催された第一次奈良博覧会への出陳が知られる程度で、寺外での公開はほとんどなかった。口もとに微笑みをたたえた神秘的な表情と流麗な衣のひだに飛鳥時代の美意識があらわれた傑作であり、本展覧会はその卓越した造形を間近に感じることのできる、またとない機会となるはずだ。

◆特別展「聖德太子と法隆寺」にて展示

山口 隆介(当館学芸部主任研究員)

◆「奈良博プレミアムカード」のご案内



令和3年4月より「奈良博プレミアムカード」の一般料金を値下げし、特典の一部を変更いたします。有効期限は今後も発行から1年間となりますが、継続更新の設定はありませんので、有効期限内でもご購入いただけます。

4月1日から4月25日にご購入いただいた方に限り、「正倉院特別展観目録(復刻版)」(第1回正倉院展目録の復刻版)をもれなくプレゼントいたします。この機会にぜひご検討ください。

なお、令和3年3月31日(水)までに発行された会員証をお持ちの方は、有効期限内は従前の「奈良博プレミアムカード」特典をご利用いただけます。料金や特典などの詳細は当館ホームページでご確認ください。

◆主な変更点

現プレミアムカード	新プレミアムカード
一般: 5,000円 学生: 3,000円 家族: 10,000円	一般: 3,500円 (学生・家族は廃止)
[奈良博の名品展] 同伴1名まで無料	[奈良博の名品展] 本人のみ無料
[奈良博の特別展] 各特別展が2回まで無料	[奈良博の特別展] 4回まで無料 (同一展は2回まで無料)

■ 記念講演会

5月1日(土) 「聖徳太子 一史実から信仰へ」
東野 治之 氏(奈良大学・大阪大学名誉教授)
[受付期間/4月5日(月) 10:00~4月30日(金) 17:00]

■ 公開講座

5月22日(土) 「法隆寺と古代仏教の世界 一工芸品から探る」
三本 周作(当館学芸部研究員)
[受付期間/4月26日(月) 10:00~5月21日(金) 17:00]
6月19日(土) 「法隆寺の仏像と聖徳太子信仰」
山口 隆介(当館学芸部主任研究員)
[受付期間/5月24日(月) 10:00~6月18日(金) 17:00]

【時 間】 13:30~15:00(13:00開場)
【会 場】 当館講堂
【定 員】 90名(事前申込先着順)
【申込方法】 当館ホームページより必要事項をご入力の上、お申し込みください(WEB申込のみとなります)。
【申込受付期間】 各講座欄をご覧ください。

※聴講無料(展覧会観覧券等の提示は不要です)。
※聴講には事前申込が必要です(当日申込でのご参加はできません)。
※入場の際には、受付完了メール画面をご提示ください。
※応募は各回お1人様1回でお願いいたします。
※定員に達し次第締め切りとさせていただきます。

■ 特別展「聖徳太子と法隆寺」
観覧料金と事前予約(優先制)のご案内

本展では、新型コロナウイルス感染症の感染予防・拡大防止のため、事前予約<優先>制を導入します。「前売日時指定券」をお持ちの方は優先的に入館できますので、ご来館前にお求めください。混雑緩和のため、入場時間は1時間ごとに区切り、その時間枠内にご入場いただきます。

予約不要の「当日券」を会場にて若干数ご用意しますが、「前売日時指定券」をお持ちの方の入場を優先いたしますので、あらかじめご了承ください。

	一 般	高校・大学生	小・中学生
前売日時指定券	1,800円	1,200円	300円
当日券	2,000円	1,400円	500円

※「前売日時指定券」は、ローソンチケット[Lコード:4/27(火)~5/23(日)分 57100、5/25(火)~6/20(日)分 57200]でのみ取扱い、ローソンおよびミニストップ各店舗、電話(自動音声0570-000-034)、インターネット(<https://l-tike.com/horyuji2021/>)で、ご観覧日前日までお求めいただけます。購入後の日時変更および払い戻しはできません。いずれも数量限定、なくなり次第終了します。詳細は特別展公式サイトなどでご確認ください。

※障害者手帳またはマイロID(スマートフォン向け障害者手帳アプリ)をお持ちの方(介護者1名を含む)、奈良博プレミアムカード会員の方(1回目及び2回目の観覧)は無料ですが、「前売日時指定券(無料)」もしくは「当日券(無料)」の発券が必要です(要証明)。なお、未就学児の方は「前売日時指定券(無料)」および「当日券(無料)」の発券は不要です。

※奈良国立博物館キャンパスメンバーズ会員(学生)の方の観覧料は、「前売日時指定券」および「当日券」とともに400円です(要証明)。詳細は、奈良国立博物館ホームページなどでご確認ください。

※観覧当日に証明書・会員証などの提示が必要です(一般と小学生以下を除く)。ご提示いただけない場合には、通常料金との差額をお支払いいただきます。

※団体料金の設定はありません。

※館内が混雑した場合は、「前売日時指定券」をお持ちでない方の入館を制限する場合があります。

※本展の観覧券で、名品展(なら仏像館・青銅器館)もご覧になれます。

美術や歴史のこと、博物館の活動など、当館ならではの多彩なテーマ、日頃聞くことの出来ない「通(つう)」なお話をご用意して、皆様をお待ちしております。どうぞお気軽にご参加下さい。

■ 4月18日(日)
「災害から文化財を守る—文化財防災センターの取り組み—」
佐藤 稜介(当館学芸部研究員)

わたしたち国立文化財機構は、文化財防災センターを昨年秋に立ち上げ、大規模災害に備える活動を進めています。平時と災害発生時、それぞれで行われている、文化財を未来に伝えるための活動についてお話しします。
[受付期間/3月29日(月) 10:00~4月17日(土) 17:00]

■ 5月16日(日)
「平安貴族の信仰生活—仏教を中心に—」
齋木 涼子(当館学芸部列品室長)

平安時代、貴族たちが仏教を熱心に信仰していたことはよく知られています。華やかな仏事だけではなく、日常生活のなかでどのように信仰が形作られていたのか、史料を通じてご紹介します。
[受付期間/4月26日(月) 10:00~5月15日(土) 17:00]

■ 6月20日(日)
「ならはくのエデュケーション活動」
翁 みほり(当館学芸部研究員)

文化財の魅力や大切さを伝えていくために、ならはくではさまざまな教育普及活動を行っています。日々どのような取り組みを行っているのかをご紹介します。ならはくビギナーの方におすすめです。
[受付期間/5月31日(月) 10:00~6月19日(土) 17:00]

■ 7月11日(日)
「古代寺院の出土品が語るもの」
中川 あや(当館学芸部企画室長)

古代寺院の発掘調査では様々な種類の遺物が出土します。屋根瓦をはじめ、仏像や仏具、堂内の飾り、僧侶達の生活道具、祭祀の道具など…。全国各地の寺院址出土品を通して、古代寺院をめぐる多様な活動をご紹介します。
[受付期間/6月21日(月) 10:00~7月10日(土) 17:00]

■ 8月8日(日)
「保存修理指導室のお仕事 —博物館科学の役割—」
安藤 真理子(当館学芸部研究員)

「博物館でどのような仕事が行われているのか?」このような疑問をお持ちになったことはないでしょうか。展示・保管環境、修理や科学調査を担う保存修理指導室での博物館科学のお仕事に焦点を当てて、ご紹介します。
[受付期間/7月19日(月) 10:00~8月7日(土) 17:00]

■ 9月12日(日)
「あこがれの天平絵画」
萩谷 みどり(当館学芸部研究員)

奈良時代、豊かな仏教文化を体現する数々の絵画が描かれました。その多くは今日に伝わりませんが、残された作品から天平絵画の姿を探り、それらが後世に与えた影響についても考えてみたいと思います。
[受付期間/8月23日(月) 10:00~9月11日(土) 17:00]

【時 間】 各回とも14:00~15:30 (13:30開場)

【会 場】 当館講堂

【定 員】 各回90名(事前申込先着順)

【申込方法】 当館ホームページより必要事項をご入力の上、お申し込みください(WEB申込のみとなります)。

【申込受付期間】 各講座欄をご覧ください。

※聴講無料(展覧会観覧券等の提示は不要です)。

※聴講には事前申込が必要です(当日申込でのご参加はできません)。

※入場の際には、受付完了メール画面をご提示ください。

※応募は各回お1人様1回でお願いいたします。

※定員に達し次第締め切りとさせていただきます。

展示品の
みどころ

ほっけまんだら
法華曼荼羅



重要文化財
絹本着色
縦73.2cm 横59.9cm
平安時代(12世紀)
奈良・法隆寺

『法華經』見宝塔品に
は、釈迦如来が『法華經』
を説いたとき、大地から宝
塔が涌出して空高くにと

どまり、塔の中の多宝如来が自らの座を半分譲って隣に釈迦を
坐らせた、という劇的な場面がある。本図はこの釈迦・多宝の二
仏が並んで坐す宝塔を中心に構成された曼荼羅である。法華
曼荼羅は密教で利益の増進などを祈る際の本尊として用いら
れた。

画面は三つの区画からなり、第一院の大きな蓮華の中央に二
仏が並坐する宝塔を置き、各花卉に八大菩薩を、四隅に釈迦の
四大弟子を描く。第二院には十六の菩薩を配し、第三院には
四大明王と、四天王を含む十二の天部を表す。

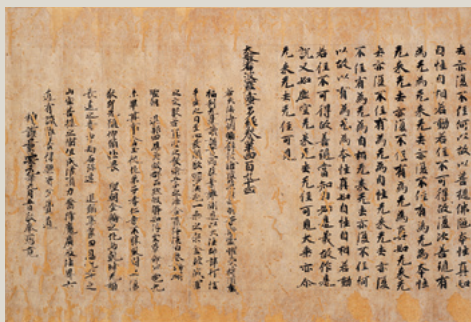
淡い橙色や緑色を多く用いた温かな色調に、諸尊の穏やか
な表情、第二院に散らされた優美な蓮華文様もあいまって全体
から醸し出される雰囲気は実に柔らかい。これらの特徴から本
図は平安時代後期の作と考えられ、現存するうちで最古の法華
曼荼羅として位置づけられる。

法隆寺ではこの頃より、南都の寺院がいずれもそうであった
ように密教化が進んだ。本図はまた、こういった信仰の様相も知
らせてくれている。

萩谷 みどり(当館学芸部研究員)

◆特別展「聖徳太子と法隆寺」にて、4月27日～5月23日に展示。

だいほんにゃきょう
大般若経 卷第四百九十四



重要文化財
紙本墨書
縦26.5cm
長835.2cm
奈良時代(8世紀)
奈良・法隆寺

奈良時代、法隆寺の中心伽藍の東方、かつて聖徳太子が住
んだ斑鳩宮の跡に、救世観音像をおさめる夢殿を中心とした東
院伽藍が整備された。この東院の整備に尽力したのが、行信
(生没年不詳)という僧侶であった。

その後、行信は大量の写経を企てた。その内容は、『法華經』
『金光明最勝王經』『大般若經』など合わせて2,700巻に及ぶも
のであった。行信自身が筆を執った訳ではないが、特に『大般
若經』については、ある時期から行信の真筆と信じられ、尊重さ
れた。残念ながら現存する遺品はあまり多くないが、褐色を呈す
紙の風合い、謹直だがやや大ぶりの文字などは、奈良時代後
期に相応しい写経の姿である。

巻末の識語によると、行信は、この写経の功德によって時の
称徳天皇を助け、人々を救おうとした。しかし、写経が完了しな
いうちに、行信は亡くなり、弟子の孝仁等が遺志を継いで完成さ
せた。時に神護景雲元年(767)9月5日であった。この年は8月16
日に改元があったため、その前から準備されていた識語の日付
は、もとの「天平神護三年」を擦り消して書き直されている。

野尻 忠(当館学芸部資料室長)

◆特別展「聖徳太子と法隆寺」にて、5月25日～6月20日に展示。

■開館日時(4月～6月)

■開館時間 / 午前9時30分～午後5時

※特別展「聖徳太子と法隆寺」会期中の土曜日は、特別展・名品展
とも午後7時まで。

■休館日 / 毎毎月曜日

※5月3日(月・祝)は開館します。

■無料観覧日(名品展のみ) /

5月18日(火)(国際博物館の日)

■観覧料金 名品展

	一般	大学生
個人(当日)	700円	350円

※高校生以下および18歳未満の方、満70歳以上の方、障害者手帳またはマイリ
D(スマートフォン向け障害者手帳アプリ)をお持ちの方(介護者1名を含む)は無
料です。

※奈良国立博物館キャンパスメンバーズ加盟校の学生及び教職員の方は無料です。
※高校生以下および18歳未満の方と一緒に観覧される方は一般100円引き、大
学生50円引きとします(親子割引)。

■観覧料金 特別展「聖徳太子と法隆寺」

※事前予約優先制です。予約不要の当日券を若干用意しますが、前売日時指定券
をお持ちの方の入場を優先いたしますので、あらかじめご了承ください。

詳しくは内面のご案内をご覧ください。

	一般	高校・大学生	小・中学生
前売日時指定券	1,800円	1,200円	300円
当日券	2,000円	1,400円	500円

※本展の観覧券で、名品展(ならびに像館・青銅器館)もご覧いただけます。



[交通案内] 近鉄奈良駅下車徒歩約15分、または
JR奈良駅・近鉄奈良駅から奈良交通、市内循環
バス(外回り)「氷室神社・国立博物館」下車

※当館には駐車スペースがございませんので最寄りの
県営駐車場等(有料)をご利用ください。